

竜・獅子・麒麟などを施した船型だんじり  
牛窓だんじり



指定区分	県指定重要有形民俗文化財
読みかた	うしまどだんじり
所在地	瀬戸内市牛窓町牛窓・鹿忍
指定年月日	昭和62年4月3日
解説	だんじりとは秋祭りに氏子が引きまわす山車(だし)のことである。江戸時代後期から明治初期にかけて、牛窓神社・鹿忍(かしの)神社の氏子が建造した船だんじりで、秋祭りに町内を練り歩く。多くが邑久大工によって製作されたもので、舳先に、竜や獅子、麒麟などの精巧な彫刻を施している。
アクセス方法	瀬戸内市牛窓:西大寺バスセンターから牛窓線に乗車
公開状況	牛窓神社:10月の第4日曜日「牛窓秋祭り」、鹿忍神社:10月の第2日曜日「鹿忍地区秋祭り」
設備	
備考	

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要有形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	牛窓だんじり
よみかた	うしまどだんじり
しょざいち (所在地)	瀬戸内市牛窓町牛窓・鹿忍
していしたひ (指定した日)	昭和62年4月3日
せつめい	牛窓(うしまど)だんじりは船のかたちをしており、江戸時代(えどじだい)おわりごろから明治(めいじ)のはじめに、牛窓神社(うしまどじんじゃ)や鹿忍神社(かしのじんじゃ)の地区(ちく)の人たちによって、つくられました。舟の先(さき)にはみごとな彫刻(ちょうこく)のリュウやシシ、キリンなどがほどこされています。今でも牛窓の秋まつりで活躍(かつやく)しています。